

COLUMN

鎌倉の猫事情 第二十七話



参議員選挙速報がTVの画面で刻々と流される真夜中、スイ ピーは真っ白な小さな赤ちゃんを次々と6匹産みました。すみれの下に産まれた弟たちなんと、6匹全員が男の子でした。すみれが産まれた2ヶ月と2週間後に産まれた弟達は、人間で言えば年子です。甘えっこの長女すみれが、お姉ちゃんになった反応は、意外なものでした。箱の中にいる小さな存在の事を、初めから理解していたようです。しばらくの間、まだお母さんに甘えたい盛りというのに箱のあるカーテンの中には、近づこうとしませんでした。心配そうに、不思議そうに、なんとも言えない微妙な表情で遠くから見守っているようでした。遅ればせながら、妻の出産に気づいたグーニー君。こちらもしばらく神妙な表情でカーテンの奥を見守ります。

ある日、スイ ピーが箱を離れた時、チャンス waited いたかのように、グーニー君、意を決してカーテンに近づき、顔でそれを払いました。そして、1歩2歩と近づき、前足を箱に掛けて、身を乗り出しました。そのまま静止し、箱の中にごめく白い塊をじっと見つめています。そこへスイーピーが、心配そうに戻ってきました。じっと箱に手をかけ見つめるグーニー。後ろからそれを見守るスイーピー。

やがて、グーニーは小さな低い声でひと鳴きし、静かにそこを離れました。すれ違うようにスイーピーがカーテンの中へ入って行くと、箱の中ではけたたましくお乳を奪い合う子猫たちの鳴き声が聞こえてきました。そんな日々が過ぎたある日のこと、すみれが、そわそわとして箱の中を気にし始め、ついに箱の中へ入っていきました。聞き耳を立ててみても子猫達がおびえている様子はなく、この数日のすみれの様子からして心配はないだろうと、放っておくことにしました。スイーピーはなかなか戻って来る様子がありません。そろそろ連日の子育てに疲れが出たのでしょうか、表の空気を吸いに出掛けたようです。近頃のスイーピーは、疲れきった様子で箱から子猫たちを振り切って出てくる事があります。きっと、休む間もない出産と子育てに心身共に疲れきっていたことでしょう。

スイーピーに置いてきぼりにされた子猫たちは静かにしています。すみれも箱の中に入ったままです。いったい箱の中はどういうことになったのか、そっと覗いてみました。すると驚いたことに、弟猫達よりほんのひと回り大きいすみれが、体を投げ出して赤ちゃんに自分のおっぱいをあげているのです。赤ん坊達もすみれのお腹をまさぐっています。すみれはそれを満足そうに見つめています。

まるで、お母さんの居ない間は自分がついているから大丈夫よ、というように。猫達を見ていると、同じ時に産まれた兄弟達は本当に仲がよく、一緒におっぱいをもらい、喧嘩をしながら色々な事を経験し育って行くのが分かります。子猫達が大きくなって動き廻るようになると、時々すみれは一人寂しくしているように見ることがありました。兄弟のいないすみれはいつもちょっぴりうらやましく感じていたようです。

歳月が過ぎ、弟達はあちこちと、ミルクホールに縁のある猫好きの人にもらわれて行き、家に残る事になった、ちょっと寂しがりやで甘えん坊のすみれは、色白でとびっきり美人の女の子に成長して行きました。



to be continued

DANGER

危険な町 サンボアンカ

その町は、フィリピンマニラ空港から国内線に乗り換え、2時間ほど飛んだミンダナオ島最南端にある。赤道近く、真冬でもギラギラと太陽が町を照りつけている。町には大きな広場があり、中央には「旅人の木」が通りに向かって孔雀が羽を広げるように立っている。通りに立ち並ぶ店と町の中央には小奇麗な何軒かのデパート、広場を真っ直ぐに海へ向かうと大きな船の着く港があり、倉庫も幾つか立ち並んでいる。海岸には、瀟洒なホテルも、海風の吹き込む気持ちのいいレストランもある。海で採れる豊富な海産物を新鮮なココナツオイルで調理した中国風の料理と色鮮やかな甘い果物は、旅人の舌をとろけさせ、帰ることを忘れさせてしまうほどだ。そして目の前に浮かぶ島、サンタクルーズ島。島全体がピンク色に輝く夢の島である。それは、しかしこの町の表向きの顔。この太陽の町に数日を過ごす、見せ掛けとは違うこの町の危険で暗い顔が見えてくる。太陽が沈み、水平線が闇に隠れると、海面に点々と光が現われる。水上生活者達の暮らしの光である。彼等は、一人ボートに住んでいたり、幾つかの家族が共同で大きな船に住んでいたり、もう少し良い暮らしの出来る者たちは、海辺に木で足場を組みその上に家らしきものを建てて住む。海の上には様々な暮らしと思惑が交錯している。山の方、10メートルもあるかと思われる、椰子の木がうっそうとする山奥。谷間に流れる小さな川では女達が洗濯をする、そんな光景もある。山を越えるただ一つの道には、古ぼけたバスが行き交い、険しい顔をした男達が鈴なりになってバスにしがみついているのすれ違う。山にも市場があり、それなりの生活がある。しかし、その椰子の木のジャングルの奥には、知っているものなら決して近づこうとは思わない、暗黒の砦がある。モロ解放戦線と言われる回教徒ゲリラの基地。アルカイダの村がある。暗い目をした男達の村。南の町サンボアンカは、もっとも美しく、もっとも危険な町なのである。

